



ペアレント・メンターの持続的な活動を支える仕組みづくり
事業報告書

2019年3月



特定非営利活動法人 日本ペアレント・メンター研究会

目 次

1. 2017年度までの流れ
2. 2018年度の事業目的
3. 公開講座・情報交換会
4. ペアレント・メンター協会（仮称）設立準備会
5. ウェブサイトの充実
6. まとめ・今後の課題

1. 2017 年度までの流れ

発達障害を中心とした障害のある子どもの家族支援として、親が親を支えるための仕組みであるペアレント・メンター活動は重要である。本研究会では、2014 年度から日本財団助成を受け、日本全国でペアレント・メンターの養成や活動の継続のための調査、研修、コンサルテーション活動を行ってきた。結果として、未実施自治体への活動の拡大とともに、2016 年の発達障害者支援法の改正時には「家族同士の支え合う仕組み」という文言で明文化されその重要性が法律にも盛り込まれるまでになった。発達障害支援法の改正に伴い、第 13 条に「発達障害者の家族が互いに支え合うための活動の支援その他の支援を適切に行うよう努めなければならないこと」が盛り込まれるなど、社会的にもペアレント・メンターの重要性が認識されるようになったと考えられ、活動のさらなる充実が望まれており、各地域における養成研修後のメンター活動の充実、およびペアレント・メンターへのサポート部分が求められている。

本研究会は各地の養成研修や継続研修、コンサルテーション等に協力しつつ、本事業によって HP での情報発信力の強化、未養成地域での研修会の開催、養成地域での活動活性化のための情報交換会・交流会の開催等を実施してきた。課題であった東日本での活動充実に対しては、2017 年度に東京都がメンター養成を開始決定するなど成果も上がってきている。

ペアレント・メンター養成後の活動の推進や継続については地域格差が大きく、活動に関するニーズや成果の共有、有効な組織運営など自治体レベル、メンターレベルでの情報交流や共有に大きな課題があり、それらの原因として以下の 2 点があげられる。

- ・各地域のペアレント・メンター活動を支えている行政機関や支援者間、メンター間での相互交流できる場や、新しい情報を得られる場がほとんどない
- ・行政担当者や発達障害者支援センターなどのバックアップ機関の支援者の移動などによって継続が困難になる

以上は、従前の事業により明るみになった点であり、今後は情報交換の場の設定などを継続し、長期計画の最終目標として、全国、各地域でペアレント・メンター活動の交流が活発になり、持続的な活動として定着することで、専門家以外の相談することができる相手が増え、障害のある子どもの親が孤独を感じることを少なくする。そして安心して自分らしい子育てができることを目指す。

2. 2018年度の事業目的

本年度はペアレント・メンター活動の全国への普及と推進に関する5カ年計画の5年目である。これまでの経験を踏まえ3年後のビジョンとして、

- ・「ペアレント・メンター情報交換会・交流会」を2018年度に本事業により「日本ペアレント・メンター協会設立準備会」に発展させるとともに複数地域で開催する
- ・2019年度に「日本ペアレント・メンター協会設立総会」を開催できるようにする
- ・2020年度ペアレント・メンター協会が総会を自主開催する

を目標とし、2018年度は以下の事業内容とした。

1. 日本ペアレント・メンター協会（仮称）設立準備会

（ペアレント・メンター情報交換会・交流会の発展版）の開催

- (1) 時期：日程調整のうえ1回
- (2) 場所：全国2-3地域（東京・大阪・福岡などを候補地）
- (3) 対象：ペアレント・メンター及びペアレント・メンターに関する事業に取り組んでいる行政担当部局等
- (4) 内容：ペアレント・メンター協会設立に向けての説明会・意見聴取及び当該地域のペアレント・メンター事業に関する様々な情報の交換や人的交流の場とする。次年度の協会設立に向けて規約などの整備。

2. WEBによるメンター活動に関する情報交換の場の構築

- (1) 時期：年間で実施
- (2) 場所：ウェブサイト上
- (3) 対象：ペアレント・メンター及び支援関係者、情報を必要とするすべての方
- (4) 内容：ペアレント・メンターの交流サイト、ペアレント・メンターや家族支援に関わる情報提供、活動のノウハウの提供などオンラインで共有できるシステムを構築する。

3. 公開講座・情報交換会(協会設立事業)

1) 公開講座

(1) ねらい

ペアレント・メンター協会設立準備として、各地域での啓発およびペアレント・メンター活動への理解を促すため、二会場同時開催とした。いずれも地元の発達障害者支援センターの協力・理解を得て、福岡では共催事業、大阪では協力事業として開催した。

また、今回は受益金を設定し、これらをペアレント・メンター協会の設立資金とすることとした。

(2) 内容

【大阪会場】

時 間	内 容	
10:00~11:45	『家族のことを考えよう・・・メンターとして、家族として』 「家族って不思議、子どもって不思議…メンターの家族支援」 「支え合いのまちづくり～ 本人, 家族, メンター, 支援者…みんなで考えよう!～」	0:50 0:45

1. 日 時 ; 2018年11月17日(土) 10:00~12:00
2. 会 場 ; ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター) 5階特別会議室
(大阪市中央区大手前1丁目3番49号)
3. 主 催 ; 特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会
4. 参加者 ; 28名(保護者・行政・福祉・医療・教員など)
5. 担当(登壇順); 安達潤(北海道大学)・小倉正義(鳴門教育大学)

【福岡会場】

時 間	内 容	
10:15~13:00	『発達障がいのある子どもの家族支援を考える』 「母親支援、父親支援、きょうだい支援を考える」 「メンター活動としての家族支援」	1:20 0:30

1. 日 時 ; 2018年11月17日(土) 10:00~12:00
2. 会 場 ; ふくふくプラザ(福岡市市民福祉プラザ) ふくふくホール
(福岡市中央区荒戸3丁目3番39号)
3. 主 催 ; 特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会
4. 共 催 ; 社会福祉法人 福岡市社会福祉事業団(福岡市発達障がい者支援センター)
5. 参加者 ; 111名(保護者・福祉・教員・支援者・行政・医療など)
6. 担当(登壇順); 井上雅彦(鳥取大学)・加藤香(日本ポーターズ協会)

(3) 事後アンケート

公開講座の効果と評価を検討するために、参加者（大阪 28 名・福岡 111 名）に事後アンケートを実施した。それぞれの演題ごとに「良かった」から「良くなかった」の 5 件法で回答、自由記述も求めた。以下に結果を報告する。

【大阪会場】

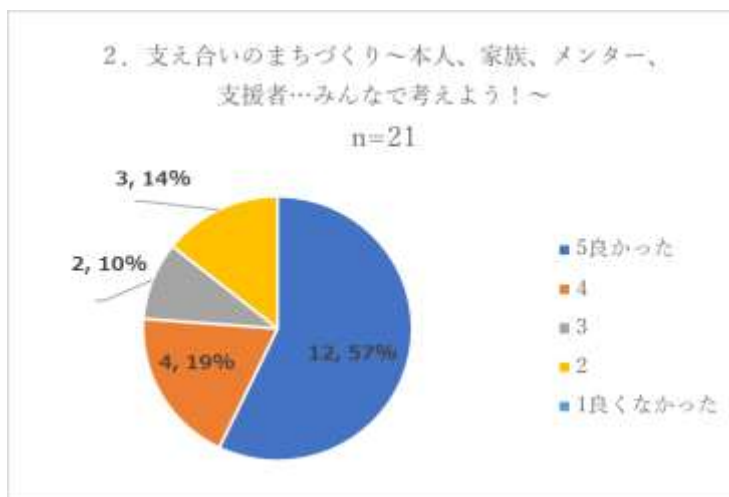
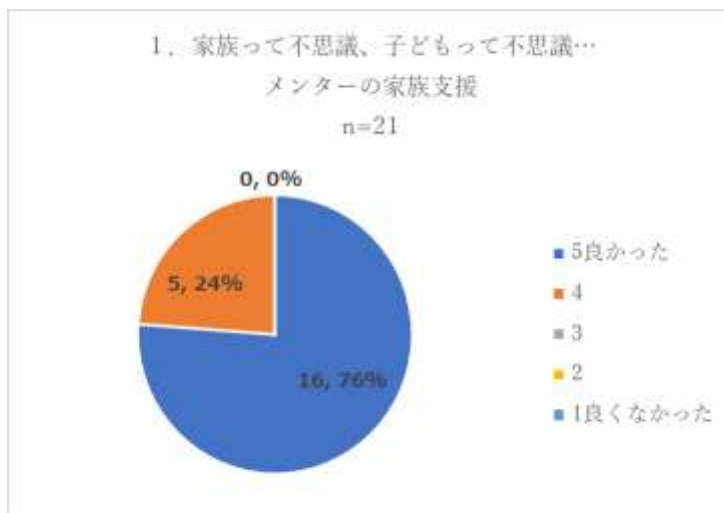
参加者 28 名のうち 21 名から回答を得た（回答率 75.0%）。

「家族って不思議、子どもって不思議…メンターの家族支援」においては、「良かった」（5 点）、次の評価（4 点）で内容への満足度が得られた。自由記述において、「具体的事例でわかりやすかった」、「困りごとに接した時の距離感を考えることができた」、「傾聴の意味を再認できた」など、人の話、想いを「聴く」ということを分かりやすく、実感できたとの感想が多く述べられた。

「支え合いのまちづくり～みんなで考えよう～」においては、「良かった」（5 点）、（4 点）で 75% の評価を得た。「誰でも支え手になれる地域について考えた」、「配慮が善意でないことが新鮮に感じた」など障害の有無にかかわらず、人がお互い支え合う社会について考える機会になったとの意見があった。

全体意見として、「啓発と相談の違い」、「親のコミュニティの大切さ」、「つながりの必要性」など、参加者の立場によってさまざまな形での感想が述べられた。

なお、個々の評価については下記の通りである。



【福岡会場】

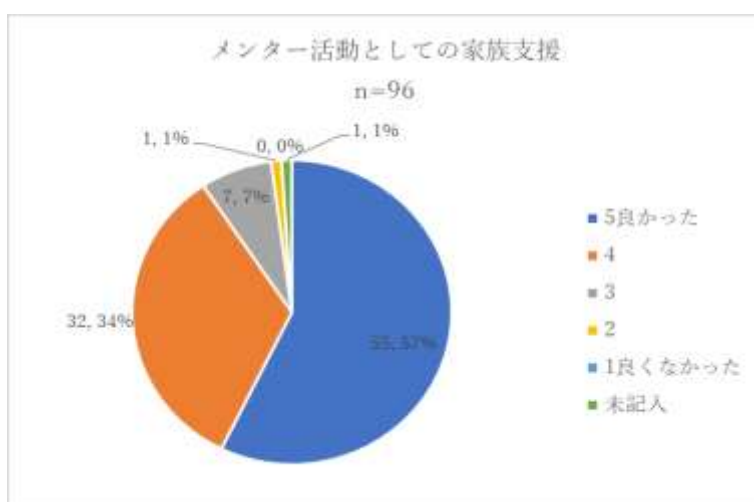
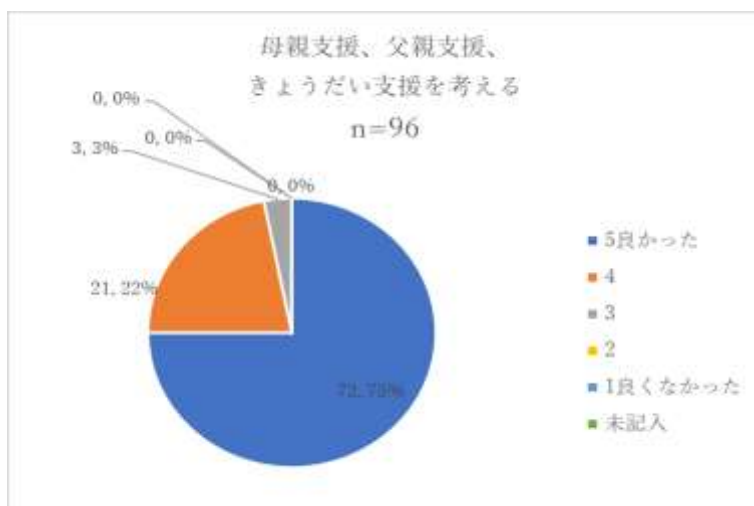
参加者 111 名のうち 96 名から回答を得た（回答率 86.5%）。

「母親支援、父親支援、きょうだい支援を考える」においては、「良かった」（5 点）、次の評価（4 点）で 97% の評価が得られた。自由記述において、「ライフステージ、立場などそれぞれの場面で必要な支援を得られた」「家族支援がどのようなものか理解できた」「支援のアプローチについて考えさせられた」など、多く寄せられた。

「メンター活動としての家族支援」においては、「良かった」（5 点）、（4 点）で 90% の評価を得た。「メンターというものを初めて知った」「メンターの心得がわかった」「親の完成形ではないということばが印象に残った」などペアレント・メンターの活動範囲、内容についての一定の評価を得た。

全体意見として、「家族支援の重要性を再認した」「自分がこれから何をすればいいのかわかった気がする」などのほかに、「もっと深く（じっくり）聞きたい」など、より長い時間を希望する意見が多く見られた。

なお、個々の評価については下記の通りである。



2) 情報交換会

(1) ねらい

従前より開催していたペアレント・メンター事業情報交換会は、行政・支援機関などが中心であり、「ペアレント・メンター養成研修が終わっている地区、または2年以内に養成研修を予定している地区の担当者で行政担当、支援者（実務2年以上）」を参加条件にしていた。そのため、ペアレント・メンターが参加しても、発言・情報の内容は運営側に近い形になっており、参加できるメンターの立ち位置が限られたものになっていた。

昨年度の大阪において試験的に開催したペアレント・メンターのみによる交流会は、運営側の関係機関に遠慮することなく等身大での交流ができ、また活動への悩みなどを共感できる場であることが確認できた。それをもとに今回は、大阪・福岡での関係機関連絡会に加え、ペアレント・メンターのみでの情報交換会も同時開催とし、ペアレント・メンター協会設立の基盤や、メンター同士の共感、エンパワメントを目指した。

(2) 内容

【支援機関連絡会】

○大阪会場

1. 日 時； 2018年11月17日（土）13:00～14:30
2. 会 場； ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）4階中会議室1
(大阪府中央区大手前1丁目3番49号)
3. 主 催； 特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会
4. 協 力； 大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか
5. 参加者； 15名（大阪府・京都府・兵庫県・和歌山県・近江八幡市）
6. 内 容； 地域からの現状報告をふまえた様々なディスカッションなど
7. 担 当； 小倉正義（理事・事務局長）

○福岡会場

1. 日 時； 2018年11月17日（土）13:00～14:30
2. 会 場； ふくふくプラザ（福岡市市民福祉プラザ）402会議室
(福岡市中央区荒戸3丁目3番39号)
3. 主 催； 特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会
4. 共 催； 社会福祉法人 福岡市社会福祉事業団（福岡市発達障がい者支援センター）
5. 参加者； 13名（福岡市・北九州市・長崎県・大分県）
6. 内 容； 地域からの現状報告をふまえた様々なディスカッションなど
7. 担 当； 井上雅彦（理事長）

【メンター情報交換会】

○大阪会場

1. 日 時； 2018年11月17日（土）13:00～14:30
2. 会 場； ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）5階大会議室2
(大阪府中央区大手前1丁目3番49号)

3. 主 催； 特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会
4. 協 力； 大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか
5. 対 象； 関西地域で活動しているペアレント・メンター
6. 参加者； 10名（大阪府・京都府・和歌山県・近江八幡市・三重県）
7. 内 容； 地域からの活動報告をふまえた様々なディスカッションなど
8. 担 当； 安達潤（副理事長）

○福岡会場

1. 日 時； 2018年11月17日（土）13:00～14:30
2. 会 場； ふくふくプラザ（福岡市市民福祉プラザ）401会議室
(福岡市中央区荒戸3丁目3番39号)
3. 主 催； 特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会
4. 共 催； 社会福祉法人 福岡市社会福祉事業団（福岡市発達障がい者支援センター）
5. 対 象； 九州地域で活動しているペアレント・メンター
6. 参加者； 9名（福岡市・長崎県）
7. 内 容； 地域からの活動報告をふまえた様々なディスカッションなど
8. 担 当； 加藤香（理事・事務局）

（3）事後アンケート

情報交換会の効果と評価、および今後の方策を検討するために参加者に対してアンケートを実施した。それぞれの質問項目について「とても良かった」「良かった」「普通」「あまり良くなかった」「良くなかった」の5件法で回答、自由記述も求めた。以下に結果を報告する。

【支援機関連絡会】

大阪では参加者15名のうち8名、福岡では参加者13名のうち10名から回答を得た。それぞれの回収率は大阪53.3%、福岡76.9%である。

大阪会場において「とても良かった」37%、「良かった」63%の回答となった。他自治体での具体的方策を知ることで、当該地域の今後の事業運営の参考となったという意見が多く、「事前に知りたい内容をあらかじめ集約するとより効果的」など当会の運営へのヒントも得られた。

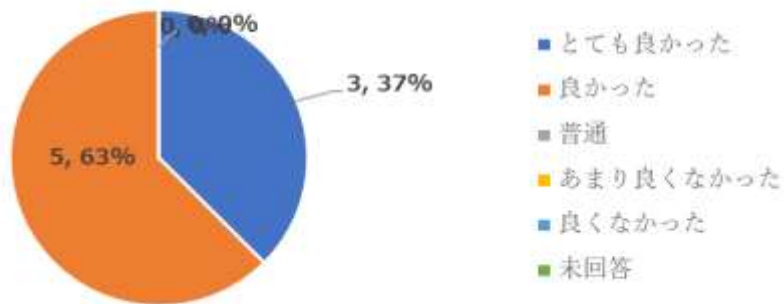
福岡会場において「とても良かった」70%、「良かった」30%の回答となった。「自県の問題点、課題が見つかった」「他県の話聞くことで今後のヒントを得られた」「隣の県の取り組みを知らなかった」など、他から受けた情報により、今後の事業への展開につながるという評価を受けた。

いずれの会場においても、情報交換会の今後の開催継続を望むとともに、「地域をもっと広く」「より多くの人、地区に参加して欲しい」など、全国の情報を当会担当者からでなく、実際の担当者間で行いたいという意見が多く挙げられた。行政担当部署、発達障害者支援センターなどで事業を担当しているも、異動などにより引継ぎや書類上の情報になるため、情報交換の場となる連絡会は、担当者間で話し合うことの気づき、有用性を上げる地域が多く見られた。

なお、個々の評価は以下の通りである。

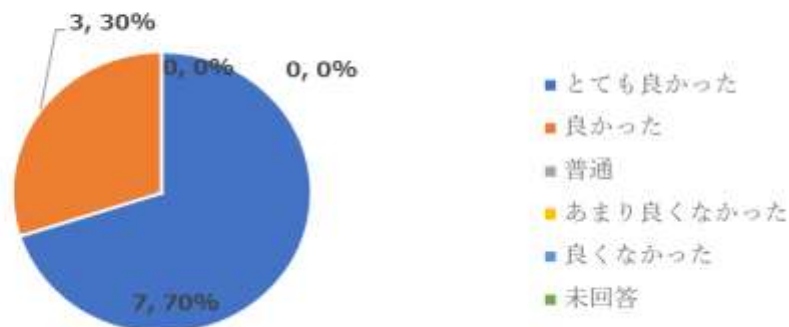
1. 情報交換会に参加して良かったか

(大阪) n=8



1. 情報交換会に参加して良かったか

(福岡) n=10



【メンター情報交換会】

大阪では参加者 10 名のうち 9 名、福岡では参加者 9 名全員から回答を得た。それぞれの回収率は大阪 90.0%、福岡 100%である。

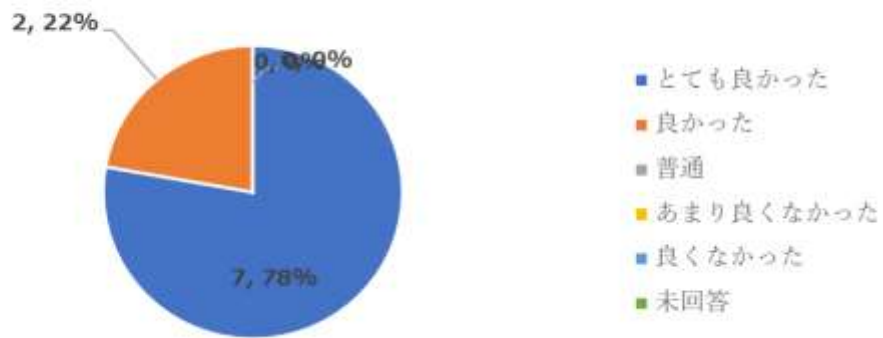
大阪会場において「とても良かった」78%、「良かった」22%の回答となった。「こんなに地域差があるのにはびっくりした」「地域色がある事に気付けただけでも収穫があった」「自分は周りに守られているとわかった」など、他県交流によって気づく部分があったという意見が多くみられた。

福岡会場において「とても良かった」78%、「良かった」22%の回答となった。「他地域の話を聞くことでうらやましくもあり、また自分のところのありがたさを実感した」「他のメンターにもぜひ参加して欲しい」など、圏域をまたいだメンター同士の交流への評価を得られた。

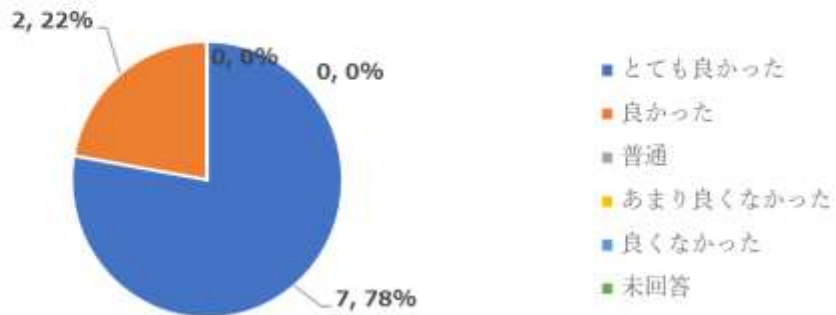
現在のメンター事業下におけるペアレント・メンターは、登録地域内での活動・情報に限られている。他県の情報が得られないことは、不満（不安）を取り除く手立てを得られないことにつながり、活動への士気に少なからず影響を与えていることも考えられる。そのため、このような他県との交流は、活力の一助を担っているのではないかと考える。支援機関連絡会同様、情報交換会の継続開催を希望する声が多く、「他の地域のメンターと交流したい」など、ペアレント・メンター協会の骨子である「メンター同士の交流・エンパワメント」につながる指針になると思われる。

なお、個々の評価は以下の通りである。

1. 情報交換会に参加して良かったか
(大阪) n=9



1. 情報交換会に参加して良かったか
(福岡) n=9



4. ペアレント・メンター協会（仮称）設立準備会

（1）ねらい

ペアレント・メンターの活動は、活動登録地域の下で行われる地域限定のものになっていると考えられる。養成講座の方法は自治体により様々なケースが見られ、他県に引越した際には改めて受講し直す必要がある、など、地域により事業展開はさまざまな形がみられる。それらは、地域情報に合わせ、システム構築やペアレント・メンターを守る仕組みには不可欠であるが、反面、メンター自身の思考の偏り、活動の頭打ちなどの限界なども考えられる。こうした中、当研究会が行う研修以外に、メンター同士の交流を目的とした交流会、情報交換会を開催することで、メンター自身の士気を高め、仲間と共感しあえるきっかけになるのではないかと、研修前夜の懇親会、試験的な交流会を開催し、一定の評価を得てきた。

今後、各地域でのメンター活動・交流を第一に、都道府県をまたいだ交流も行うことにより、メンターが主体的に活動できるような素地を作りたいと考えている。ペアレント・メンター協会（仮称）は、メンターのみで構成する団体として、全国各地のメンターがつながる居場所にしたいと考える。これら3か年計画として

- ・2018年度「ペアレント・メンター情報交換会・交流会」を「日本ペアレント・メンター協会設立準備会」に発展させるとともに複数地域で開催する
- ・2019年度「日本ペアレント・メンター協会設立総会」を開催できるようにする
- ・2020年度ペアレント・メンター協会が総会を自主開催する

以上の目標を立てた。今年度は、当事業担当に加え、各地でメンターを牽引している経験者を招集し、「協会設立準備会」を開催した。

（2）内容

1. 日 時； 2018年11月18日（日）13:00～15:00
2. 会 場； ビジョンセンター田町 4階 408会議室
(東京都港区芝5-31-19 オーエックス田町ビル)
3. 内 容； ペアレント・メンター協会設立に関する概要
今後のスケジュールについて
設立に向けての検討項目（各種ワーキンググループについて）
4. 参加者； 参加者7名：小松しのぶ（ペアレントメンター鳥取）
三井春枝（愛知県自閉症協会）
野田孝子（北海道自閉症協会ポプラ会）
辻知有紀（和歌山県ペアレントメンター協会）
井上雅彦・小倉正義・加藤香（ペアレント・メンター研究会）
サポーター1名：中谷啓太（鳥取大学大学院）
オブザーバー2名：安達潤・吉川徹（ペアレント・メンター研究会）

(3) 結果・まとめ

各地域より、養成講座開始初期から活動準備、活動を軌道に乗せ、それらを維持してきた核となるペアレント・メンターに集ってもらい、全国的なメンター交流について議論した。参加者にペアレント・メンター協会世話人への就任を依頼したところ、承諾を得られた。

自閉症協会事業時代に養成されたメンターは、当時の他県メンターとの情報交換により、疑問の解消、活動継続の安心感、気持ちのねぎらいなどをお互いに交わしてきた経験上、これら他の地域とのメンター交流が有用であるという意見がある。一方、自治体施策になった後に養成されたメンターは、地域限定の枠の中でのメンター交流しかなく、当会主催の交流会ではじめてその有用さに気付いたとの意見を得た。これらふたつの背景から、ペアレント・メンターが地域を超えて交流できる素地を作るべく、協会設立を計画している。

当面の流れとして「規約の作成」「口座開設」「世話人会の意見交換のできるMLなど」の整備を課題とし、過日完了し、2019年度の設立総会の会場・様式を継続して検討することとした。

5. ウェブサイトの充実

2015年度の財団助成で当研究会のウェブサイトをリニューアルし、2016、2017年度にも内容の充実やセキュリティの強化に取り組んできた。2018年度は、メンター同士やメンター活動に関わる人たちの交流を深めるためのウェブサイトの活用方法について議論を重ねてきたが、情報発信の場として整理していきながら交流できる場としてはメーリングリスト方式(一斉配信)が妥当ではないかという議論になったため、ホームページ上に交流サイトを準備することはしなかった。またこのことをふまえて、研究会メンバーだけでは限界があると考えたため、ホームページの運用の専門家2名に依頼し、今後ホームページのあり方についての助言を求めた。今後、この助言も参考にしながら、さらなるホームページの充実を目指す。

下記に前年度比のアクセス分析の結果を添付する。ユーザー数が53.5%増、セッション数が52.1%増になっており、着実にホームページの認知度は広まってきている。新規セッション数も同様に増えており、徐々にホームページへのアクセスが広まってきている。また、2019年3月12日～16日で3地域のメンターにメールで依頼し、本研究会のホームページに関するウェブアンケートに回答を求めた。回答者16名中、「役に立つ」：12.5%、「やや役立つ」：56.3%であった。これらの値は、助言を受けて修正する前のページに関するデータやアンケートなので、助言をもとに一部アップデートを行ったが、今後もさらにアップデートし続ければ、さらに認知度や評価が高まることが予想される。

なお、アドレスは、<https://parentmentor.jp/>である。



6. まとめと今後の課題

本年度、日本財団事業の最終年度として、各地域での情報交換会、最終目標であった「ペアレント・メンター協会（仮称）」の枠組まで進めることができた。しかしながら、メンター事業は各地において様々な変化があり、今後の課題とされることもある。以下に、項目ごとにまとめと今後の課題を記述する。

1) 公開講座

ペアレント・メンター事業につながる発達障害や家族支援に関する公開講座は、近年様々な形で、様々な講師が行っており、「家族支援」「発達障害」を扱う講座は一般的になってきた。当研究会の特色である「ペアレント・メンター事業」「家族支援のあり方」などより特化した内容で情報発信をしていくことが必要と考えられる。

今回大阪において、地域の親の会団体の他の事業と日程が重なってしまったことから、告知の遅延もふくめ、公開講座の参加者が当初より大幅に少なくなった。

2) 情報交換会

ここ数年、毎回情報交換会を行ってきたが、地域が西日本であるペアレント・メンター事業の展開が進んでいるところに偏ってしまったことは否めない。しかし、毎年開催することで、お互い顔の見える交流や発展的な意見交換ができていることは確かである。今後は東日本において開催することで、全国版に発展したいと考えるが、立地条件、移動手段を考えると、交通手段のいい土地での開催になってしまう点が課題である。また、地域によって、情報交換会参加への交通費などが予算化されているところ、されていないところと差があり、気持ちはあっても、遠方のメンターにとっては金銭的に難しい場合がある。この部分を解消するためにも、ペアレント・メンター協会でのオンラインでのつながりも検討する必要がある。

3) ペアレント・メンター協会（仮称）設立準備会

上記、情報交換会の経験から、メンター自身に負担（時間的・金銭的）のない交流について検討した。オンラインでの意見もあったが、「どのように交流するのか」「どうしても地域の偏りが出るのではないか」など、自身の地域と他地域を把握しているメンターだからこそその課題が出された。加えて、全国のメンターが集まるには地域ごとの温度差もあり、全国のメンターが情報交換、交流、やりとりなどをするには、容易な方法でスタートするのではなく、熟考した上で段階的に進めていく方がよいとの意見が出された。今後も世話人全員で、次年度の設立総会の告知も含め検討する必要がある。

4) ウェブサイトの充実

今年度もウェブサイトのコンテンツの充実に取り組んできた。昨年度と比較してもアクセス数が増えていることを考えると、一定の成果を得ることができたと考えられる。ただし、元来ホームページをメンターの交流の場として位置づけようと考えていたが、その点については情報発信の場にとどめる方向

になり、交流の場としての機能を付与できなかった。そのため、情報発信の場、交流のきっかけとなる場としての充実はさらに求められると考えられるため、助言内容を研究会でさらに議論したうえで、今後活かして行きたい。

2019年3月

特定非営利活動法人日本ペアレント・メンター研究会一同

